

2025年11月16日 聖霊降臨後第23主日 ルカ 21:5—19

「まどわされない」

私たちは大きな山や高い木、広い海や澄んだ湖などを見ると、その雄大な光景に感動します。同じように人間が作った巨大な建物や、大きな彫刻などにも心を動かされます。

ルカ 21 章は、まさにエルサレム神殿の輝く壮麗さから始まります。弟子たちが「なんと立派な神殿でしょう」と言ったとき、イエスさまはこう言われました。「これらのものは、石が崩されずに積まれた まま残ることはない」。

人間が誇るものは崩れます。どんな国家も、どんな権力も、どんな宗教施設であっても、永遠ではありません。それを知ることは、恐れではなく、むしろ真実への解放です。

しかし、イエスさまはそこで終わりません。「いつ、どのように壊れるのですか」と問う弟子たちに、イエスさまはこう言われます。

「惑わされないように気をつけなさい。」

終末を語る宗教は、しばしば「不安」と「恐怖」を利用します。「救われるためには、この教祖に従わなければならない」「終わりが近いのだから、財産を献げよ」「わたしたちだけが正しい」——そう言って人を縛り、支配します。

また、独裁者は恐怖を利用して、人々を戦争へと追い立てます。「国が危ない」「敵に負ける」「誇りを取り戻せ」——そう叫びながら、自らの保身を守るために、若者のいのちを差し出させようとします。

イエスさまは、そのような声に対して、はっきりと言われます。

「恐れるな。ついて行くな。まどわされるな。」

キリストは、恐怖によって人を従わせる方ではありません。主は、真理によって人を自由にする方です。では、私たちはどのようにして、この世にあふれる声に「まどわされない」でいられるのでしょうか。

イエスさまが示される道は三つあります。

第一に、出来事ではなく、主に目を向けること。戦争、災害、国際情勢、社会不安——それらが起こるとき、イエスさまは言われます。「ただちに終わりが来るわけではない。」信仰は「状況」ではなく、「主の言葉」に立ちます。

第二に、証しへと招かれること。イエスさまは言われます。「それは、あなたがたが証しをする機会となる。」苦難は、絶望ではなく、キリストの愛と平和を語るための機会になります。

第三に、主が共におられることを知ること。イエスさまは言われます。「あなたがたの髪の毛一本も失われることはない。」苦難の中でも、神はあなたを見放されません。

「まどわされない」とは、恐怖を拒むことではなく、恐怖よりも大きい希望を知ることです。神殿が崩れても、国が揺らいでも、歴史が混乱しても、時代が荒れても、主は、あなたを見捨てません。

だから、私たちは今日も、暴力ではなく、平和を。絶望ではなく、希望を、支配ではなく、ともに話し合い、分かち合い、互いを尊重します。

主はここにおられます。だから私たちは恐れません。イエスさまは今、私たちに語りかけられます。「まどわされないように」と。

主の呼びかけに応えて、恐怖に惑わされることなく、愛によって生きましょう。